

令和6年度第2回コミュニティ・スクール委員会(清水CS委員会)

会 議 録

1 出席委員等

小室委員長、土屋副委員長、宮城副委員長、梶委員、中村委員、堀委員、高委員、
内田委員、寺岡委員

欠席～長尾委員、高金委員、森委員

【事務局】(山下教育長)、渋谷学校教育課長、山川教育指導幹、野田教頭、村尾教
頭、津田副園長、休宮教諭、増田教諭、上出CSコーディネーター

2 場 所 清水中学校 3階 LL 教室

3 日 時 令和6年10月29日(火)18時30分開会

4 傍聴人数 なし

5 会議内容

教育長あいさつ

発表会等で子供たちの様子を保護者や地域の方々に温かく観ていただき子どもたちの
力が発揮されていた。

小室委員長あいさつ

小中一貫教育について議論を深め、子どもたちのために意義ある会議としたいので協
力を願う。

説明・協議事項

小室委員長により議事進行

(1)各学校等の実践状況について

学校等の実践状況について資料に基づき、しみず認定こども園長、清水小学校長、
清水中学校長より説明。特に清水中学校では自ら学ぶことを重点に取り組まれている
ことが報告された。

質問として中学校における生徒に主体性を持たせる教育の実態について質問があ
り、校長より説明する。

(2)意見交換(熟議)

熟議に入る前に、山川教育指導幹より資料に基づき、清水町の小中一貫教育の推

進状況について説明あり。

2 班に分かれ、それぞれ事前指定者が進行、記録・発表を担う。ただし、A 班森委員欠席により A 班の記録を休宮清水小教諭が担う。

テーマは、「小中一貫教育」の推進にあたり、CS 委員として何をなすべきか とし①現在進めている清水町の取組に対する質問・意見②現在の取組を踏まえてどのようなことを子どもたちに身に付けてもらいたいのか③小中一貫教育を推進するにあたりさらに取り組んだほうが良い点 について意見交換を行う。

A 班

- ・ これまでは学校内が中心で、これまでの連携では不十分なために一体化していくことが一貫教育である。実態として施設や教育内容が異なるが、小中一貫によって小 6 と中 1 のステップを小さくスムーズにするイメージであることが理解できた。
- ・ 小学生と中学生のギャップが小中一貫をやることにより小さくなること。最終的な子どもの育ちはこれまでは小・中がそれぞれ考えていたが、接続を考え 9 年を通してどのように育てていくかとなる。
- ・ こども園でも年長の 3 学期は不安で荒れる。不安であるが小学校を知るだけでかなり安心する。こども園児が小学校を散歩し図書室やトイレを利用することで小学校を知ることができている。
- ・ 接続に耐えられない子どもが増えてきているのでフォローする仕組みが必要。
- ・ 主体的に学ぶことについては中学校ではかなり進んでいるが、幼保小中と一貫して子どもの力をつけていく必要がある。
- ・ 段差を取り除いて育った子供は社会に耐えられるか不安がある。
- ・ 主体的に問題解決できる力を身に付けさせられているか。
- ・ 全国学力学習状況の把握により、小中をつなげて丁寧にやっていくことにより、豊かな感性とともに学力も育てなければならないとの課題も出てきた。

B 班

- ・ 町民にわかりやすく町民に発信していく努力が必要では。何が変わるのか比較できるものがあるとわかりやすい。
- ・ 例えば小中一貫の取組において英語授業の負担は教員にとって大きいのではないかと心配したが、負担より得るものが多いとの話であった。小学校へも校長自ら出向いているそうで、子どもの安心にもなっていると思う。
- ・ 中学校の修学旅行において、生徒からの問いに対し「しおり」を見るようにし直接答えないようにして自主性・自立性を意識させているとのこと。家庭では答えを与えすぎではないか。教育を学校に任せっきりになっているので家庭も努力が必要になっている。
- ・ あいさつの力をどのように育んでいくかということで、中学校では更にやっ

ていくとのことだった。小中一貫として挨拶を教えることをもっとやっていくことによりもっと良くなるのではないか。ただ、外で仕事している最中に子どもが挨拶してくれる。増えていることは実感しており、挨拶をすることで自分に返ってくるということを子どもたちに感じてもらうことも大事である。

(3)その他

- ・自転車について、見通しの悪い交差点で小中学生と思われる子どもが飛び出していたので指導をしてほしい。また、大人のヘルメットは努力義務だと思うが、子どもへの指導はどうなっているのか。

(学校教育課長)各学校において交通安全の指導は取り組んでいる。出された意見は各校長と協議していくが、少年団の関係もあるので関係者と相談していきたい。

(清水中校長)危険運転を行ったことが特定できれば、厳重に対処している。

清水町こども大会作品展示(11/14～11/19 文化センター)と 11 月 26 日開催の「子どもフォーラム」についての周知

小室委員長より閉会あいさつ。(20 時 05 分)

令和6年度第2回コミュニティ・スクール委員会(御影CS委員会)

会 議 録

1 出席委員等

若原委員長、大石副委員長、米光委員、太田委員、久野委員、上谷委員、細田委員、佐藤委員、乙戸委員、金山委員

欠席～口田委員

【事務局】 山下教育長、渋谷学校教育課長、山川教育指導幹、三木教頭、堀口教頭、久萬教諭、筒井教諭、上出 CS コーディネーター

2 場 所 御影中学校家庭科室

3 日 時 令和6年10月31日(木) 18時30分開会

4 傍聴人数 なし

5 会議内容

山下教育長あいさつ

中学校の文化祭や小学校やこども園の発表会もそれぞれ終わったが、子供たちの様子に地域の方々に温かく多くの方に観てもらいありがたい。子どもたちの成長のきっかけとなっている。それ以外にも地域の方々やボランティアの方々の応援をもらい大きな力となっている。参観日もあり、さらに子供たちを見てもらえればありがたい。

若原委員長あいさつ

本年度も半年を過ぎ、中学校の文化祭を見て少ない人数の中で一生懸命にやっている小中一貫を含めて普段考えられている様々な意見を出していただきたい。

説明・協議事項

若原委員長により議事進行

(1)各学校の実践状況について

学校の実践状況について資料に基づき、御影小学校長、御影中学校長、御影こども園長より説明

質問・意見無し

(2)意見交換(熟議)

熟議に入る前に、山川教育指導幹より資料に基づき、清水町の小中一貫教育の推進状況について説明あり。

2 班に分かれ、それぞれ事前指定者が進行、記録・発表を担う。

テーマは、「小中一貫教育」の推進にあたり、CS 委員として何をなすべきか とし①現在進めている清水町の取組に対する質問・意見②現在の取組を踏まえてどのようなことを子どもたちに身に付けてもらいたい③小中一貫教育を推進するにあたりさらに取り組んだほうが良い点 について意見交換を行う。

A 班

- ・部活動や少年団を絡めて部活動の地域移行にあたりスポーツなど体験入部による児童生徒の交流を進めてはどうか。
- ・幼保小連携の取組を参考にし、文化祭など行事の姿を見せてはどうか。
- ・中学生が低学年の学習を見てもらうなどの方法も学校を楽しく思うきっかけになるのではないかな。
- ・以前は行われていた子どもたちによる学校行事のポスターや案内文などの配布なども復活させてはどうか。
- ・子どもの目線で御影をどう見ているかを小・中学生から発表してもらってはどうか。

B 班

- ・小中一貫は心配だったが、説明を受け、まず先生方の情報交換しそれにより子供たちが交流するとうまくいくとのことで共感できる。
- ・書写ボランティアについても小中一貫の中でPR してもっている。
- ・知らない情報がたくさんあって心配であり、うまく教えていかななくてはならない。
- ・今後生徒同士の交流、特にアイスホッケーの交流を進めていきたい。
- ・十勝清水学を地域挙げて取り組みに協力していかなければならない。

(3)その他

・町で進めている LINE の有効活用を。学校から各家庭に登録してもらえれば学校行事の周知等が可能となるのではないかな。

(学校教育課長)現在は除雪等の関係で情報提供してもらうことで行っている。学校の忘れ物も家庭で少し気を付ければよくなるとの意見も親の集まりでは述べられていた。

- ・11 月 26 日開催の「子どもフォーラム」についての周知

若原委員長より閉会あいさつ。(20 時 00 分)